

トルコ共和国地震災害に対する国際消防救助隊の活動概要

参事官

1 地震発生・初動対応

令和5年2月6日（月）10時17分頃（現地時間2月6日4時17分頃）、トルコ共和国ガジアンテップ県ヌルダウを震源地とするマグニチュード7.8の大規模な地震が発生しました。この地震により多数の死者、負傷者が発生し、多くの建物が倒壊するという甚大な被害が発生しました。

消防庁では、地震発生直後から、外務省及び独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）と緊密な連絡調整を行いつつ、被害状況等の情報収集をしました。そして、地震発生当日、トルコ政府が我が国政府に対して捜索救助チームの派遣を要請したことを受けて、国際緊急援助隊（以下「JDR」という。）を所管する外務大臣から消防庁長官へ消防の救助隊員に関する派遣協議がありました。消防庁長官は、直ちに、事前に定めた出動計画上、当該日の第一派遣順位であった7消防本部の市長等に派遣要請し、全ての市長等から要請に応じる旨の回答を得た後、国際消防救助隊（以下「IRT」という。）の派遣を決定しました。これを受けて、消防庁1名と7消防本部16名で構成されるIRTは、JDR・救助チームの一員としてトルコへ派遣されることとなりました。



JDR・救助チーム結団式（先遣隊）

○IRT派遣メンバー（17名）

- ・消防庁 1名
- ・東京消防庁 6名
- ・福岡市消防局 3名
- ・広島市消防局 3名
- ・茨城西南広域消防本部 1名
- ・徳島市消防局 1名
- ・上越地域消防事務組合 1名
- ・宮崎市消防局 1名

2 空港集結・出発

本派遣においては、JDR・救助チームは迅速に被災地入りするため、先遣隊（第1陣）と本隊（第2陣）に分かれました。先遣隊は、2月6日（月）の22時50分発イスタンブール行き、本隊は、2月7日（火）の22時40分発イスタンブール行きに搭乗し、それぞれ東京国際空港（以下「羽田空港」という。）を出発しました。

先遣隊は計18名で構成されましたが、このうち、5名がIRT隊員（消防庁1名及び東京消防庁4名）であり、その他12名のIRT隊員は本隊のメンバーとともにトルコに向けて出発しました。

3 到着・現地での活動

（以下、現地時間 日本との時差－6時間）

(1) 先遣隊

先遣隊の隊員は、イスタンブール国際空港に2月7日（火）の7時00分頃に到着しました。

先遣隊は、その後、国内線に乗り換え、12時00分頃にトルコ中央部の都市カイセリに到着しました。到着後、直ちにトルコ災害緊急事態対策庁（AFAD）のカイセリ事務所を往訪し、そこから得た情報を基に、震源地に近いトルコ南西部のカフラマンマラシュに、陸路で移動しました。7日夜のカフラマンマラシュ到着後は、現地での要請を受けて、倒壊した9階建てアパートにて捜索



救助活動を開始しました。ここでの搜索救助活動は、8日（水）の朝まで続き、要救助者を2名救出しましたが、トルコ保健省職員によりその場で死亡が確認されました。

その後、先遣隊は、次の活動場所を定めるべく、情報収集をしたところ、4階建てアパートメントの倒壊現場で救助隊を求めているとの情報を得て、直ちに駆けつけ、住民から詳細な聞き取りを行い、搜索救助活動に着手しました。

(2) 本隊

本隊の隊員は、イスタンブール国際空港に2月8日（水）の7時30分頃に到着しました。

先遣隊と同様の移動ルートを経て、同日20時00分頃カフラマンマラシュに到着。先遣隊と合流し、先遣隊が対応していた活動現場を引き継ぎました。

(3) 先遣隊と本隊合流後

全隊員が揃った後、JDR・救助チームは、2個中隊4個小隊の通常の編制を構築し、中隊ごとの活動へと移行しました。また、先遣隊が搜索救助活動と並行して行っていた宿营地設置場所の選定も完了し、資機材や物資を受入れる準備も整えました。JDR・救助チームの提案で、カフラマンマラシュ内では、INSARAG（都市型搜索・救助活動の国際標準化・調整を目的として、1991年に設立。国連人道問題調整事務所（OCHA）ジュネーブ本部が事務局）の手法による国際調整（被災国政府に代り、国際救助チームが協調して、自らが対応する搜索救助現場を決定するなどの仕組み）も始まりました。JDR・救助チームは、この国際調整を活用しつつ、独自に被災地を巡りながら活動現場を特定していくこととしました。

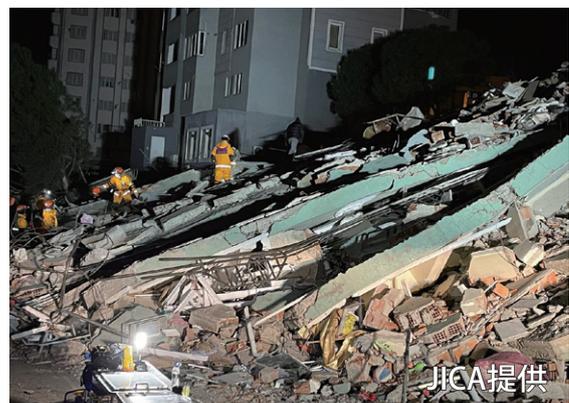
一連の活動現場で、JDR・救助チームは、レーダー等の資機材、救助犬、ヘイリング（声かけ）等による搜索を行った後、反応があった箇所にチェーンソー等の破壊用資機材でブリーチングをし、二次倒壊や余震に注意しながら、医療関係者や構造評価専門家と連携して、狭隘空間から要救助者を救出しました。その搜索救助活動には高度な技術及び知識が必要となりますが、各隊員は日頃の訓練成果を生かしながら、2月13日（月）まで継続的に活動を行い、6名を救助しました。現地の救助チームや他国の国際救助チームとの協働が必要な状況に遭遇したり、極寒のため宿营地でも十分な休憩がとれない環境下にもありましたが、隊員の士気はトルコの被災者のため、最後まで高いものがありました。



周辺住民からの情報収集



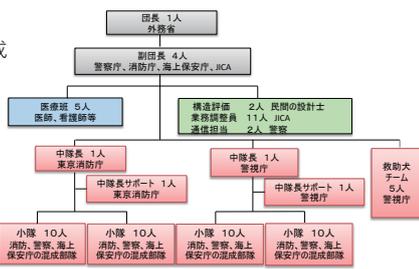
ドッグサーチ



カフラマンマラシュでの搜索救助活動

◎JDR救助チーム構成

- ・外務省1名
- ・消防庁1名
- ・消防本部16名
- ・警察庁1名
- ・都道府県警察本部22名
- ・海上保安庁14名
- ・JICA12名
- ・医療5名
- ・構造評価2名
- ・救助犬4頭
- (総勢 74名)



JDR・救助チームの構成

4 帰国

トルコでの任務を終えたJDR・救助チームは、2月15日(水)2時50分発イスタンブール国際空港を出発し、日本時間2月15日(水)19時20分に羽田空港に到着しました。

羽田空港ではJDR・救助チーム解団式が行われた後、IRT解隊式が実施されました。解隊式では、消防庁村川参事官による松本総務大臣メッセージ代読及び全国消防長会吉田事務総長挨拶が行われました。

消防庁では、IRTの派遣活動がより高いレベルで遂行できるように、今回得られた貴重な教訓を生かしてまいります。

現地では、復興に向けた動きも徐々に始まっています。犠牲になられた方々のご冥福と被災地の早期復旧・復興を心からお祈りするとともに、今回のIRTの活動が被災者の復興に向けた励みに少しでもなることを願っています。

国際消防救助隊解隊式での松本総務大臣メッセージ

- 国際消防救助隊としてトルコ共和国における地震災害に派遣された、遠藤総括官、早坂隊長以下17名の隊員の皆様、本当にお疲れ様でした。
- 今回の派遣は、余震や寒さといった大変厳しい環境での捜索・救助活動となりましたが、現地到着直後から献身的に活動を続けていただき、心から感謝申し上げます。皆様の活動の様子は日本においても大きく報道され、その活動ぶりを見るにつけ、私自身もたいへん心強く感じました。
- また、皆様の活動についてトルコ共和国からも謝意

が示されるなど、我が国の国際貢献としても大きな意義をもたらしました。

○ご家族の方や派遣元の消防本部におかれても、皆様の連日のご活動を誇りに思いながらも、さぞかし心配されたことと思います。私も、皆様が全員ご無事で帰国されたことに安堵しております。

○皆様におかれましては、今回の経験をそれぞれの職場での活動に生かし、今後も人命救助という困難かつ崇高な任務を全うしていただきたいと思っております。

○隊員の皆様、本当にありがとうございました。



JDR・救助チーム解団式



IRT集合写真

問合せ先

消防庁国民保護・防災部参事官付
遠藤国際協力官/廣田係長/長谷事務官/新井事務官
TEL: 03-5253-7507